

◎特集

地域を犯罪から守る！

～安心して暮らせるまちを目指して～

犯罪件数は高水準

平成十六年中に区内で発生した犯罪は、四千四百二十九件（刑法犯）。そのうち空き巣や車上狙い、ひったくりなどの窃盗犯は全体の約八割を占めています。

バブル経済の崩壊以降、長く引く景気低迷の影響もあって、窃盗犯の件数は高水準で推移している状況にあります。これらは身近で起こり得る犯罪で、誰もが被害者になる可能性の高いものとも言えます。

地域に高まる防犯意識

最近の犯罪の特徴として小学生や女性を狙った犯罪の増加があります。犯罪の矛先が弱者に向けられた、痛ましい事件が幾度となく報道されています。

世界一治安の良い国と言われた日本。その安全神話が足元から揺らぐ事態に、町内会をはじめとする地域団体や関係者が危機感を抱き、真剣に地域の安全のための活動を積極的に展開しています。そして、地域の安全への関心の高まりに合わせ、青パト（青色回転灯装着車による巡回）などの新たな取り組みも広がりを見せています。

これらの活動はその存在を広くアピールすることで、犯罪の抑止につながることが期待されています。今月は地域の防犯の取り組みを紹介します。

「地域の安全は自分たちの手で守る」
そんな決意を胸に

防犯活動に取り組む人たちがいる。

地域に広がる防犯活動の存在は

安全で安心な生活の大きな支えとなっている。

札幌白石防犯協会

「自分たちのまちは自分たちの手で守る」という意識から組織された民間防犯組織。各団体の活動への協力、援助などを通じて防犯思想の普及や防犯対策の推進などに大きく貢献しています。

全国地域安全運動では、町内会などの協力で地下鉄白石駅周辺で街頭啓発を実施。少年剣士も参加して道行く人に防犯を呼び掛けました。



10月15日に行われた街頭啓発

青色回転灯パトロール

地域の自主防犯意識の高まりから、道路運送車両法の保安基準が緩和され、平成16年12月から地域の防犯活動実施団体が、青色回転灯を装備した車両で防犯パトロールができるようになりました。

区内では昨年12月に東札幌町内連合会が認定を受けパトロールを開始した

のを皮切りに、今年1月には川北町内会、7月には白石中央第一町内会も開始しました。また菊水元町南町内会も実施を予定しているなど、地域の防犯活動のシンボルとして定着しつつあります。

青色回転灯を装備することにより、パトロールの存在に対する認識性が高まり、犯罪抑止効果の向上が期待されています。



9月28日に実施された白石中央第一町内会のパトロール